

福山市地域コミュニティのあり方検討委員会

○開催目的

人口減少社会においても地域コミュニティが持続し、地域づくりに意欲の持てる地域社会の実現に向け、今後の地域コミュニティの運営や必要な支援制度を考える場として開催しています。持続可能な地域コミュニティの在り方をみんなで方向付けていきます。

○委員（五十音順）

井上 誠	地域づくり塾修了者
江口 千種	福山市PTA連合会幹事
後藤 健之	地域づくり塾修了者
佐藤 賢一	福山市自治会連合会会長
橋本 哲之	福山市社会福祉協議会会長
廣田 要	福山明るいまちづくり協議会会長
藤井 眞弓	福山市女性連絡協議会事務局長
古谷 輝昭	福山市老人クラブ連合会副会長
真室 明美	福山市福祉を高める会連合会副会長
村田 政雄	福山市公衆衛生推進協議会副会長兼事務局長
吉田 美砂	福山市子ども会育成協議会事務局長
委員長 渡邊 一成	福山市立大学教授 地域連携フェロー
渡邊 千裕	地域づくり塾修了者

○オブザーバー

櫻井 常矢（福山市持続可能な地域コミュニティ形成に関する政策アドバイザー）
澤 尚幸（福山市政策アドバイザー）

○開催スケジュール

※会議時間はいずれも1時間30分

- 第1回 8月29日（木）19時30分～ 地域活動の負担感を共有、改善策の検討
- 第2回 9月19日（木）19時30分～ 地域支援の在り方の検討
- 第3回 10月28日（月）19時30分～ 地域組織の在り方の検討
- 第4回 11月23日（土・祝）14時～ モデル事業の共有、これからの地域コミュニティの在り方を検討
- 第5回 1月20日（月）19時30分～ 検討委員会の意見をとりまとめ、市長へ報告

※3月15日（日）に「人口減少時代の地域コミュニティを考えるシンポジウム～これからの地域づくりを一緒に考えよう～」を予定

第5回福山市地域コミュニティのあり方検討委員会

○日時

2020年（令和2年）1月20日（月）19:30～21:00

○会場

福山市役所本庁舎3階 大会議室

○プログラム

- 1 人口減少時代の地域コミュニティのあり方報告書について（提案）
- 2 報告書提出及び説明

○「人口減少時代の地域コミュニティのあり方報告書」について提案

前回提示した報告書（案）から変更があった箇所について説明
委員の意見を取りまとめ、最終確認

○報告書提出及び説明

- 1 報告書を市長へ提出
[報告書、資料編はこちら](#)
- 2 報告書の概要説明及び各民主団体の課題・取組について発表



概要説明（渡邊委員長）

- 地域づくりにかかわる団体、行政それぞれが本報告書に示す取組を実践し、「役員主体の地域づくり」から「地域住民をはじめ多様な主体の参画による『みんなで共に創るまちづくり』」へ転換することにより、人口減少社会にあっても安心して暮らせる持続可能な地域共生社会をめざしていきましょうという提案。
- 地域と行政それぞれの課題からめざす姿・役割・取組を議論し、今後の地域づくりについて、具体的取組を示した。
- 人口減少が進むこれからの地域社会においては、多様な主体により地域の課題を解決する学区（町）地域運営組織が、複数学区が連携した協議会、全市組織や行政、社会福祉協議会と相互に情報を共有・連携し、みんなでまちづくりを行う必要がある。
- 今後は自らができることに、できるところから取り組むことが重要である。
- 自分たちの組織や地域の特色や歴史を理解したうえで、みんなで話し合いながら、持続可能な地域共生社会の形成をめざしていく。

今後の各民主団体の課題・取組の考え方	
自治会連合会	<p>各学区それぞれ抱えている問題は違うが、やはり加入率の低下が課題。この加入率を維持し、更に上げていくことが組織強化につながる。災害時の「自助」「共助」というお互いの助け合いが必要だが、加入率の低下が妨げていると思う。</p> <p>回覧・配布物については精査し、スリム化することで負担の軽減を図る。</p>
公衆衛生推進協議会	<p>公衆衛生委員は何の仕事をするのか、解り難いのが課題。20年以上前は病害虫駆除、伝染病予防。それからごみのリサイクル等へシフトしている。役割は学区によって違うし、学区内の各自治会によっても違う。協議会では、環境（ごみ）、検診、食生活の問題、脱温暖化をしている。災害時にも役割が何か考えている。</p> <p>何をする委員なのかをアピールしていくことが課題。</p>
明るいまちづくり協議会	<p>組織・活動それぞれに課題がある。組織については中央委員の在り方について検討していきたい。活動は6つの委員会に分かれて長い歴史の中でそれぞれ活動をやってきた。</p> <p>多くの活動は事務局の職員の支えがあってこそできている状況。各委員会委員の非常に熱い思いに水を差さないよう、少し時間をかけて検討する。</p>
子ども会育成協議会	<p>会員数の減少と指導者の高齢化が課題であり、地域の協力を得て、地域ぐるみで子どもを育てる気運を高める中で、保護者の負担を減らし、会員増につなげていくかを考える。</p> <p>スポーツに力を入れているが、スポーツをしない子どもをどうやって入会してもらおうかが課題。来年度に向けて違う活動を子ども会として考えていかないといけない。</p> <p>現在「ジュニアリーダー」活動を進めている。その活動を強化して「ジュニアリーダー」を育てていく活動に力をいれていきたい。</p>
女性連絡協議会	<p>会員数の減少が大きな課題。防災での女性の視点、男女共同参画でも女性ならではの役割が大きい、それに比べられるだけの組織力が減退している。そのため、他の団体、一緒に行動してもらえぬ個人などと対話・交流・連携が必要だと実感している。目標・目的・課題を明らかにし、それを整理しながら一緒にやっていくことが必要。</p> <p>「目の前にあることをこなす」から「能動の取組・考え・姿勢」が必要。一人ひとりの能力アップ・行動力アップが必要。</p>
老人クラブ連合会	<p>連合会では「延ばそう健康寿命・担おう地域づくり」をスローガンで活動している。会員の高齢化、体力低下、フレイル状態が目立つようになると、孤独・孤立が生まれる。</p> <p>そのため、できるだけ楽しい話し合い、通いの場、集いの場をもって、改まった話し合いの場ではなく、楽しく参加できる話し合いの場を設ける。人と人との共生が生まれるよう本音で話し合える活動をめざしたい。</p>

<p>福祉を高める会連合会</p>	<p>福祉活動はこれからの高齢化社会に欠かせない。リタイヤ後どういったライフスタイルを持つか。よい人生だったと思うためには福祉の活動は非常に重要。</p> <p>福祉を高める会では、「居場所づくり」「見守り活動」「お互いさま活動」を活動の柱として取り組んでいる。これを元気がある高齢者が取り組んでいる。この取組を若い世代が見ることでよい影響が出ると思う。「福山未来共創塾」へ参加したときに、30～40歳代の若い世代が頑張っていた。こういう人たちがいるということは頼もしい。</p>
<p>P T A 連合会</p>	<p>少子化が進んでいくなか地域とのつながりが薄れていく可能性があるため、まずは地域とつながりを絶やさない努力が必要だと思っている。学区によって座談会を開いているところもあるが、自分の在住学区では会議は開かれても「意見交換の場」は設けられていない。そういった活動が行われるように、P T A から声かけができたかと考えている。今後P T A として現状を踏まえた活動に見直し、縮小し、役員だけが大変な思いをするのではなく、責任を分担・軽減して多くの人に関われる団体をめざしたい。</p>
<p>社会福祉協議会</p>	<p>人口減少社会、一方では人生100年時代という時代で、地域で長く、良く生きていかななくてはいけない。地域づくりというものは地域課題の解決、地域の暮らしを支えるということであり、まさに「地域福祉」そのものであることを再認識した。</p> <p>地域の課題を「他人事」ではなく自分のこととして解決する仕組みをつくる必要がある。また「まるごと相談」「断らない相談」のような包括的に受ける相談支援体制の構築が必要。行政・社会福祉協議会・幅広い団体と協働するなかで、「まるごと我が事」の地域共生社会の実現をめざし、行政・社会福祉協議会・幅広い団体が協働し、その中核を社会福祉協議会が担っていきたい。</p>
<p>地域づくり塾終了者 （まちづくり推進委員会、 町内会連合会役員）</p>	<p>非常に元気な60～70歳代が多く、その方たちから色々学びながら、日々楽しく活動している。</p> <p>40～50歳代は仕事や学校の役員など、地域の役員ができにくいと思うが、学ぶためには地域へ出てきてもらわないといけない。まちづくりに興味を持って楽しむことが大事だと思うので、後継者に引き継ぐ体制づくりが大切。</p>
<p>地域づくり塾修了者 （単位町内会長）</p>	<p>転入後今の地域へ引っ越してきて5年。一番最初に学区で消滅する町内会だと言われていたが、町内会長に就任し、今では一番活気があると言われている。地域づくり塾や検討委員会へ参加し、自分なりに勉強しながら地域に帰って答え合わせをして動いた結果、町内会の皆さんから「町内会が楽しくなって、住みやすい」と言われた。</p> <p>今後も皆さんと交流を続けて、成功例や失敗例を聞き参考にしながら、自らの町の方法で活発に活動していくよう頑張りたい。</p>

<p>地域づくり塾修了者 まちづくり推進委員会委員長 学区自治会連合会長</p>	<p>地域づくり塾では、事業をするためには「目的」がないといけないということを学んだ。学区のみんなで話し合う中で、2つの行事が1つにしたいと提案したところ、会議も少なくなるということで全員賛成してくれた。どの事業も「なぜするのか」をはっきりさせた方がよい。</p> <p>学区内の単位町内会の加入世帯数にばらつきがあり、世帯数が少ない町内会は役員選出が大変。来年度は合同で役員を選出するなど負担を軽減する。</p> <p>検討委員会で話し合ったことを少しでも実践する。まずはやってみて、来年また考える。「出た意見は全て取り入れよう。これは無理、できないは言わないようにしよう」を心がけてやっていく。</p>
--	---

○櫻井アドバイザーの意見・まとめ

「地域の負担感」、「担い手不足」の課題を解決するための議論を重ねてきた。キーワードは次の2点。

① 新たな人材発掘

硬直した組織（役員の固定化、メンバーの固定化や同じ事業の繰り返し）となり、同じ人達が負担を強いられている。現状を変える方法は、新たな人材を発掘すること。現在市内2地域でモデル事業の取組を進めている。この地域では、30～40歳代を中心とした中核メンバーが編成されようとしている。新たな人材の発掘に一步踏み出したところ。

通常は1年から2年くらいかけての取組を4か月で進めている。

新たな人材の発掘は、丁寧にやれば進んでいくので、こういう取組を引き続き続けていかなければならない。



② 行政の役割

負担がない地域社会は存在しない。「負担感を無くす」ということは気持ちよく活動すること。楽しく活動する環境をつくるのが大事。地域リーダーに寄り添い、認めることで気持ちよく活動ができると思う。これは行政の役割ではないかと思う。地域づくりは「仕組み」ではなく「心」でやること。そういう心を支え、寄り添うことが必要。行政支援体制を整えることもそれなりの時間がかかると思う。

福山市は先進自治体と呼ばれるような流れを作ってきた自治体。その中身が長い時間の経過の中で少し薄れてきたため、もう一度再認識を。今の時代にとっての必要性を市民と考えていかなければならない。今日で終わりではなく、これからが始まり。

○澤アドバイザーの意見・まとめ

① 3つの要素が成立しているところは成功している。

「やる気のある若い人」、「応援する高齢者」、「つなぐ（コーディネートする）行政」

②「行動する」「コミュニケーションをとる」「広く場をつくる」

委員の意見に共感。

- ・自分でできることをやる。
- ・まずはやってみる。
- ・場をつくり，継続する。
- ・場を通じて自分たちを客観視する。

高齢者と若い世代のコミュニケーションを上手くつなぐために，手を差し伸べられる行政職員が必要



○市長挨拶

就任直後から「車座トーク」で全学区を回って膝詰めで地域から本音を聞く場を重ねてきた。どこの学区に行っても「地域活動に対する悩み・課題」について同じ意見が出てきた。これらの解決に正面から取り組むために本委員会を立ち上げた。



本市は将来のための取組や将来に対する布石を打ってきたが，その中で最も重要な作業がこの委員会で取り組むべき点だと思う。

車座トークで公民館を訪れたとき，何百枚という余ったチラシが置かれていた。また，地域で町内会活動をしているが，当番でチラシを回覧するとそのまま戻ってくる。これが地域活動の実態。地域活動を担う役員の肩に悩みとして覆いかぶさってきている実態だと思う。

若い世代からは，「情報伝達のためだけに会議に呼ばれるのでは，仕事をしながら町内会活動はできない」という声も聴いた。フェイス トウ フェイスで気持ちを通じ合わせることも大切だが，何か変わらないといけないという思いを持っている。

課題は分かっているが，これまで行政は正面から向き合っていなかった。これは深く反省しないとけない。一方，委員が自らの組織の在り方について改善していこうとしている姿は大変貴重なものである。

行政は，新たなことをするためにはこれまでやってきたことをやめる選択をしないと，新しいことに取り組む知恵も出てこない。これまで先人たちが努力をして地域を守ってきた取組等も，これからの時代を考えるためには，新しいやり方に移っていく決断をしていただきたい。

課題が分かった以上，行政はこれまでの姿勢を改める。そうした変わっていく姿を見ていただき，地域も新しい地域活動，楽しい，やらされ感のない地域活動について取り組んでいただけるよう，これからも力を合わせて，意思疎通をしながら取り組んでいく。これがスタートである。

○委員長挨拶

「地域づくりは手段であり，目的ではない」の言葉。

原点回帰して，これからの人口減少時代の在り方をみんなで考えて，素晴らしい福山市になればと思っている。「みんなで共に創るまち」に向け，引き続きお力添えをいただきたい。

